「日々の理科」（第 369 号） 2015（H27),-7,-7

「織姫と彦星を探す」

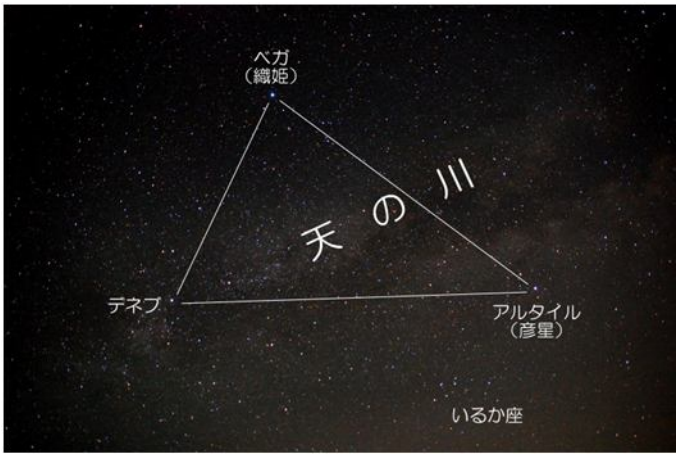
お茶の水女子大学附属小学校　田中　千尋

今夜は七夕だ。「一年に一度、天の川をはさんで織姫と彦星が出会える」とされる日で、各地でそれに因んだ行事が行われる。七夕には宗教的な色彩はなく、主として東アジアの漢字文化圏の、古来伝統文化である。

さて、織姫はこと座のベガ、彦星はわし座のアルタイルである。この二つの一等星は、確かに天の川を境に、向かい合って位置している。実はベガもアルタイルも、七夕の日にだけ見えるわけではなく、初夏から秋まで、非常に長い期間見ることができる。梅雨の時期には見逃しても、梅雨明後には必ず見られるので、夏休みの宿題にする教師も多いだろう。

天の川は、光害が少ない、海抜 1000M 以上の高原が好観望地である。海抜 1000M を超えると、空気中の微粒子が急に減って、空が澄んで見えるのだという。関東周辺では、奥日光（栃木)、雲取山（東京)、野辺山高原（長野)、北軽井沢（群馬）などが該当する。こうした土地では、肉眼でも天の川がきれいに見える。もちろん織姫や彦星も見えるが、ほかの星も多く見えすぎて、むしろ星座の形がわかりにくいほどである。

「天の川をはさんで織姫と彦星」　北軽井沢　撮影；C. Tanaka



都内では天の川の目視観測は望外であるが、織姫と彦星はよく見える。特に織姫は、惑星を除けば今の時季、全天一明るい星である。夜８時頃、天頂付近を見上げて、白い輝星があったら、ほぼ織姫に間違いない。その右下、織姫より少し暗く、ちょっと控えめなのが彦星である。この二つの星は、実際には 16 光年（約 150 兆 km）も離れている。大変な遠距離恋愛だ。子どもたちにも、是非探してみるように授業で話してみてほしい。